

信太山丘陵 自然観察ガイド

秋・冬

大阪
和泉市



信太山丘陵のなりたち

信太山丘陵は、第4紀の氷期と間氷期のくりかえしにより、温暖期には海となり海成粘土層（40～50万年前までに堆積）を形成し、氷期には陸となって地層は陸水性の砂、砂礫からなる大阪層群を形成しており、約20～30万年前までに堆積したと考えられています。この、大阪層群を土台に、河川の浸食作用と土地の相対的隆起によって河岸段丘を形成（平坦面と崖地）しており、浸食された谷筋と丘状の台地を形成しています。

信太山丘陵の特徴

信太山丘陵は、海成粘土層を含む大阪層群から成っており、標高50m前後で湧水して湧水湿地を形成しています。

そこには、絶滅が心配される湿地性の動植物が生息するほか、丘陵面の草地にも絶滅危惧種のキキョウやウスバカマキリなどが生息していて、生物多様性に満ちた里山的自然環境を残しており、大阪府下でも屈指の絶滅危惧種が集中するホットスポットとなっています。（多様性豊かで絶滅の危機に瀕しているところ）

さらに、信太山丘陵は、古くから周辺の人々に利用され親しまれてきました。現在、市街地に囲まれながらこうした里山的自然環境を残していることから大都市近郊のオアシスとして散策やハイキング、子ども達の自然体験の場として多くの人たちに利用されています。

周辺の見どころ

☆ 信太の森ふるさと館 （信太の森の鏡池史跡公園）

陰陽師安倍晴明にまつわる「葛の葉物語」（信太妻）ゆかりの土地として鏡池は和泉市史跡に指定され、白狐伝説にかかわる資料、信太山の自然・歴史資料など展示しています。

入館料：無料 休館日：月曜日、祝祭日の翌日、年末・年始

☆ 国史跡 和泉黄金塚古墳

信太山丘陵の最北端に築造された4世紀末の前方後円墳。「景初三年」（239年）の銘入り銅鏡が発掘され、「邪馬台国」の女王卑弥呼が中国の「魏」より贈られたものではないかと話題を呼びました。現在、墳丘に許可無く立ち入ることはできません。

2008年国史跡に指定され、周辺を含み整備が検討されています。

毎月1度は観察会

第4日曜日 10:00～12:30

集合場所：惣ヶ池公園（信号前入口）

参加費：1人300円

アクセス：JR阪和線「北信太駅」より徒歩30分
または、
南海バス「北信太駅筋」乗車、「鶴山台4丁目」下車